第 17 講　近代市民社会の倫理

1　ドイツ観念論〔ドイツ理想主義〕

①カント（1724 ～ 1804 年）

A　人物

旧ドイツ（現ロシア）のケーニヒスベルクに生まれる。苦学して大学を卒業し，地方で８年間家庭教師をしていた。この間，**ヒューム**，ルソー，ニュートンの著書から影響を受ける。のち地元に戻りケーニヒスベルク大学教授となり，80 歳で死去。主著『**純粋理性批判**』『**実践理性批判**』『**判断力批判**』（＝三批判書）『**永久〔永遠〕平和のために**』。

※カントの墓には，「心を満たすものが２つある。それは，**わが上なる星の輝く空と，わが内なる道徳法則**である」という言葉が刻まれている。

B　**批判哲学**

理性を用いて認識できる範囲には限りがある，と論じ，新たな哲学の形式を確立した。ここでいう「批判」とは，「徹底的に吟味（ぎんみ）・検証すること」をいう。

※理性の範囲と限界を明らかにし，それを超えたものについては判断を控える，という立場をとる。

※イギリス経験論と大陸合理論を統合するカントの批判哲学をもって，啓蒙思想は完成を迎えた。

C　**コペルニクス的転回**

カントは「人間は，経験以前に，ある対象について感覚した内容それぞれを相互に関連づける能力をもっている」と考え，対象を感覚する能力を**感性**，感覚した内容を組み立て概念を当てはめる能力を**悟性**と呼んだ。そして，必ず感性と悟性の連携を経なければならないことから，存在そのものを直接（概念を当てはめることなしに）認識することはできない（＝「**物自体は認識できない**」）とした。

※これまで「認識は対象を感覚することから起きる」とされていたことに対し，「**認識は，人間に認識能力があるから起きている**」として，従来とは真逆の議論を提示した。カントは，この考え方の転回を，天動説から地動説への転回を唱えたコペルニクスになぞらえた。

D　２つの理性

事実認識に基づいて科学的な知識を求める理性（＝**理論理性**）では，神の存在や魂のように，感覚で経験できない形而上学(けいじじょうがく)的な価値や，「人はいかに生きるべきか」などの道徳的な問いを論じることはできない，とした。しかし，人間には生き方の正しさについて判断する理性（＝**実践理性**）が備わっているとし，一時の感情や欲望に流されず**道徳法則**（⇔自然法則）に従い行動することを自ら選択するとき，本当の自由が実現すると説いた。

※カントは，実践理性を働かせることができる存在を**人格**と呼び，**人間の尊厳**の根拠は人格にあると説いた（＝人格主義）。

E　**動機説〔動機主義〕**

カントは「**もし…なら，～せよ**」という**条件付きの命令（＝仮言命法(かげんめいほう)）**に従った行為に価値を認めなかった。真に道徳的価値があるのは，単に「**～せよ**」と**無条件に理性から下される命令（＝定言命法(ていげんめいほう)）**に従った行為だけであるとし，結果として現れる行為が同じであっても，動機が異なればその価値も異なる，と説いた。

F　究極の定言命法

「汝(なんじ)の意志の**格率**が，つねに同時に**普遍的な法則**として妥当しうるように行為せよ」

※格率とは，一人ひとりがもっている行動ルールのこと。格率に従い行動しつつも，それが同時に道徳的・普遍的に正しくもある生き方をすべき，と説いた。

G　**自律と他律**

人間は，道徳的義務に従おうとする意志（＝**善意志**）に基づいて行動するとき，初めて自然法則ではなく道徳法則に従うことになる。カントは，こうした行動のあり方を**自律**と呼び，それ以外の意志に従うことを**他律**と呼んで区別した。

※この意志の自律こそが，人間にとっての自由であるとした。

H　**目的の王国**

カントは「汝の**人格**や他のあらゆる人の**人格**の内にある人間性を，いつも同時に**目的**として扱い，決して単に**手段**としてのみ扱わないように行為せよ」と説いた。

※人と関わる際は，利益を得るための手段として見るのではなく，その人の自律性と人格を尊重すること自体を目的としなければならない，とし，そのような者同士がつくる理想的な共同体を**「目的の王国」**と呼んだ。

I　永久〔永遠〕平和のために

「目的の王国」をめざし，諸国家間においても争いを止めるべき，と説いたカントは，**永久〔永遠〕平和**を実現する国際法の制定や国際機関の結成を想定した。

※これは，のちの国際連盟（1920年～）の設立理念に通じるものであった。

②ヘーゲル（1770 ～ 1831年）

A　人物

ドイツのシュツットガルトに生まれる。神学と哲学を学んだ後，イエナ大学で講師･助教授を歴任するが，ナポレオン軍に封鎖され辞職。その後，ニュルンベルクの高等中学校校長，ベルリン大学教授（のち総長）などを務めたが，コレラを患い61歳で死去。主著『**精神現象学**』『**法の哲学**』。

B　カント批判

人間の自由は，法律や制度の中で具体化されると考え，自由の根拠を個人の内面に求めるカントを，主観的・抽象的であると批判した。

C　自由の実現

「東洋では一人が，ギリシャでは若干の者が自由だったが，ゲルマンでは全ての者が自由である」とし，自由の実現は世界の歴史の必然的な方向だとした。

D　**絶対精神→**自由を本質とする理性的な**精神**で世界の最高原理

世界の歴史とは，絶対精神が人間の活動を通して歴史上に現れたもの（＝**世界精神**）が，自由を実現していく過程であると考えた。

※ヘーゲルは，イエナに侵攻するナポレオンの行進を見て「世界精神が馬に乗って通る」という手紙を友人に書いた。

※**「世界史は自由の意識の進歩である」**という言葉を残した。

E　**弁証法**

ある主張（＝**正**〔**テーゼ**〕）は，必ず対立（＝**反**〔**アンチテーゼ**〕）を含んでおり，それらを**総合・統一**する（**止揚**〔**アウフヘーベン**〕）ところに真理の認識や発展（**合**〔**ジンテーゼ**〕）があると見る考え方。

※物事は，内に潜む矛盾が表出したとき，それを統一して高次の段階に発展していく。弁証法は古代ギリシャから存在するが，理論化して大成したのはヘーゲル。彼は，理想と現実の統一を試みることで，**ドイツ観念論を完成**させた。

F　法と道徳の統一としての**人倫**→弁証法を利用

人間の求める自由は，カントの言うように個人の良心的行為のみで実現されるものではなく，制度としての外的・客観的な**法**と，心に宿る内的・主観的な**道徳**との統一において実現するとし，この統一されたものを**人倫**と呼んだ。

※内的な道徳性だけでなく，法律や制度という外的なものに目を向けて，ドイツ観念論の完成度を高めた。

G　国家→真の自由が実現された共同体

「素朴な人倫」状態である**家族**と，**「欲望の体系」「人倫の喪失」**状態である**市民社会**とが弁証法的に発展することで誕生するのが，「人倫の最高形態」が具体化された**国家**だとした。

※社会契約説が，国家を権利のための道具とみなしている点を批判した。

③その他のドイツ観念論哲学者

A　**フィヒテ**（1762 ～ 1814 年）

カントの哲学を学び，のちベルリン大学初代総長となった。疾風怒濤〔シュトゥルム＝ウント＝ドランク〕の影響を受け，自我の自由な意志的活動を強調する絶対自我の哲学を確立した。主著『全知識学の基礎』講演『ドイツ国民に告ぐ』。

B　**シェリング**（1775 ～ 1854 年）

全ての根底に存在する無差別な同一性としての絶対者を説く同一哲学を確立，**汎神論**的自然観を示した。実存主義の先駆けともされる。

第17講　倫理確認テスト

1　批判哲学を確立した，ドイツ観念論の哲学者とは？

①　ベーコン　　②　ヒューム　　③　デカルト　　④　カント

2　「物自体は認識できない」とし，人間の認識活動について従来とは真逆の議論を提示したカントは，この考え方の転回を何と呼んだか？

①　コペルニクス的転回　　②　ガリレイ的転回

③　ケプラー的転回　　④　ニュートン的転回

3　カントは，実践理性を働かせることのできる存在を何と呼んだか？

①　認識　　②　感性　　③　悟性　　④　人格

4　道徳的義務に従おうとする意志を，カントは何と呼んだか？

①　特殊意志　　②　全体意志　　③　一般意志　　④　善意志

5　以下のカントの言葉の空所に当てはまるものを一つ選べ。

「汝の意志の（　　　）が，つねに同時に普遍的な法則として妥当しうるように行為せよ」

①　動機　　②　自律　　③　他律　　④　格率

6　カントは，人々がつくる理想的な共同体を何と呼んだか？

①　ユートピア　　②　ニュー＝アトランティス

③　目的の王国　　④　国家

7　ヘーゲルは，世界の歴史は何が人間の活動を通して歴史上に現れたもの（＝世界精神）だとしたか？

①　自由　　②　絶対精神　　③　自然法則　　④　道徳法則

8　弁証法において，正と反を含み統一し，合に向かう作用を何というか？

①　テーゼ　②　アンチテーゼ　③　アウフヘーベン　④　ジンテーゼ

9　ヘーゲルが「欲望の体系」と定義した共同体とは？

①　家族　②　市民社会　③　国家　④　国際連盟

10　カント哲学を学び，講演『ドイツ国民に告ぐ』でも有名な観念論者とは？

①　フィヒテ　②　シェリング　③　ニーチェ　④　ハイデッガー

解答

1　④	2　①	3　④	4　④	5　④
6　③	7　②	8　③	9　②	10　①